

2020年度の活動方針

1. 組織構築

1) 中長期計画の確認と短期目標との関係の明確化

ビジョンとミッションに掲げられている中長期計画と当面の課題との関係性をわかりやすく整理する。必要がない事業がないかを確認して、活動をスリム化するように努力する。

2) 財源の確保

引き続き、会費・寄付金、助成金、自主事業、受託事業のバランスの良い多様な財源の確保に取り組む。

寄付金集めについては、昨年ほぼ達成した100万円を目標として、できるだけ早く2019年度の事業報告書を作成して、寄付者を募る際に活用する。

イベントやSNSで寄付の案内を継続して実施し、また外部サイトへの掲載を目指す。現在ホームページに設置してあるクレジットカードでの寄付は手数料が大きいため、別の仕組みへの変更を検討する。

3) 会員の拡大

会員募集のパンフレットをリニューアルして、会員拡大のツールとする。5名を新たに会員として迎える。

2. 研究活動

1) ビジョンプロジェクト

高木基金のうち、未実施の陸域調査を実施する。秋頃に河北潟内のベントス等の本格的調査を実施する。

国営総合農地防災事業に絡めて、再汽水化に係る調査研究ができないかを検討する。国や自治体と協力して調査研究ができないかを追求する。

2) 機関誌紙

「総合研究」22巻、23巻（特集号）を6月中に発行する。

かほくがた25巻を早期に発行し、通常の発行ペースに戻す。

3. 地域連携の構築

1) 河北潟自然再生協議会

事務局として自然再生協議会の強化のための対応をとる必要があり、理事会の中で協議していく。

2021年のクリーン作戦は実行委員会形式で河北潟湖沼研究所が事務局となり実施予定である。

2) 流域連携の展開

地球環境基金を活用して流域連携を目指し、「河北潟・大野川流域生物多様性協議会（仮）の設立のための呼びかけ」を関係団体に個別にアプローチし、具体的な展開を目指す。

3) ラムサール条約登録に向けた連携

日本野鳥の会石川と森の都愛鳥会との連携による観察会を実施する。

4. 実践活動

1) 観察会・シンポジウム

観察会や外来種除去活動は例年程度の開催を目指す。コロナ対策のため、規模や実施形態を工夫する。

シンポジウム等の開催にあたっては、ZoomやGoogle meetを活用する。

2) 七豊米

2020年度はゆうちょエコ・コミュニケーションから田んぼの保全活動について寄付金をいただいております。これを利用して引き続き七豊米田んぼでは無農薬栽培を続け、田植えや稲刈り等の作業の他、田んぼ内でのビオトープ作り等の活動をボランティアや一般参加者の方と共に行う。なお、田植えイベントについては、例年のようにいっせいに実施せず、時間差を設けて五月雨式で参加いただく形で、多人数とならないように調整しながら実施する。

5. 自主事業

1) 生きもの元気米

生産規模拡大については、取り組みを広げていくことが望ましいものの、人員の確保、場所の確保、認証システムの方法など、規模を拡大するための進め方について検討する段階にきている。2020年は前年同規模として、2021年産として1軒増やす。

販売については、2019年産は8月中旬に完売を目指す。新しいショップ、amazonへの出品もすすめ、新たな顧客開拓を目指す。2018年から元気米を使っている飲食店では生きもの元気米を使用したおにぎりメニューが出されており、引き続き使用していただけることを目指す。定期配送については、年間通して申し込みを受け付けており、これまでの顧客を維持するとともに人数増を目指す。諸経費が上がっていることから販売価格の見直しを行う。

2) すずめ野菜

生産活動は継続することが望ましいが、野菜で売上をのばすことは難しく、当面いまの規模で継続する。

3) 金曜マルシェ

前年同様の開催を続け、コロナの収束状況に応じて、開催店舗、来客の呼びかけを増やしていく。

4) ネットショップ

河北潟湖沼研究所のお米屋さんは、費用、手数料を見直し、場合によっては移転する。すずめ野菜、おこめナビについては引き続き販売を行う。

「カホクガタ」については、研究所が新たに事業開始した「市民科学出版」の本を取り扱うショップとして2020年4月より運用をすすめている。本がメインとなるが米商品も引き続き設置している。

新たな展開として2020年4月よりamazonへの出品も開始した。掲載商品を増やし、顧客開拓と売上の増加を目指す。

5) 市民科学出版

市民科学出版として、2冊程度の自費出版の受注を目指す。また、河北潟での独自の出版物を企画する。

河北潟カレンダーは、市民科学出版とば別途に発行することとする。

6. 受託事業

干拓地、県事業、こなん水辺公園は予定どおり実施の他、2件程度の受託事業の獲得を目指す。

1) こなん水辺公園

2020年度も引き続き実施する。新型コロナウイルス感染症の影響として、4月18日から5月3日の期間は金沢市からの要請もあり実施を見合わせた。5月9日より再開したが、感染症対策に注意しながら実施している。公園案内パンフレットが在庫切れとなっているため、作り直す。

7. 助成金事業

1) 地球環境基金

地球環境基金からは2020年度も300万円で助成金交付の内定通知をいただいております、「流

域がつながる仕組みを活用して、河北潟流域の水辺保全活動を推進する地域産業を拡大する」との活動名で、活動を実施予定である。

これまでに制作した動画やパンフレットを活用し、またシンポジウムでつながりのできた団体等との連携も目指し、流域で連携した保全活動をすすめていく。

2) ゆうちょ エコ・コミュニケーション

本件は、使用目的が指定された寄付金であることから、助成金として取り扱う。

活動としては、ミニビオトープづくりと冬期湛水水田の生き物観察会、七豊米の米づくりと夏季の生き物観察会、成果普及のためのシンポジウム・広報活動を予定している。